

第2章 住民及び公共交通利用者ニーズの把握

住民及び公共交通利用者の公共交通に対する要望等を把握するため、以下の調査・分析を行いました。

調査名	調査実施日	調査・分析概要
住民アンケート	平成 24 年 7 月	・平成 24 年度実施の住民アンケート調査を再分析し、村内一周バス等の地域公共交通の必要性、ニーズ等を把握する
施設利用者アンケート	平成 25 年 11 月	・高齢者や高校生等自ら移動手段を持たない交通弱者が日常的に利用すると考えられる施設を抽出し、利用者等の施設利用頻度や移動手段等を把握する
企業・団体等ヒアリング調査	平成 25 年 11 月	・村内の交通弱者が多く利用するまたは所属すると考えられる施設、団体を対象に施設の利用状況、移動手段等を把握する

1. 住民アンケート

(1) 目的

中城村内全世帯を対象にアンケート調査を行い、村内一周バス（コミュニティバス）の必要性、ニーズ等を把握します。

(2) 調査対象と調査及び集計方法

調査対象	中城村内全世帯（約 6,750 世帯）
調査状況	回収件数：753 件 回収率：約 11%
	全世帯に対しアンケートを配布、郵送または自治会長へ提出により回収 調査期間 平成 24 年 7 月
調査方法	アンケート記入方式
集計方法	<p>○年齢別クロス集計においては以下のように年齢を区分した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 20 歳未満：「中学生以下」、「高校生」、「小中高生以外の 10 歳代」 ・ 20, 30 歳代：「20 歳代」、「30 歳代」 ・ 40, 50 歳代：「40 歳代」、「50 歳代」 ・ 60 歳代：「60 歳代」 ・ 70 歳以上：「70 歳以上」 <p>○居住地クロス集計においては以下のように居住地を区分した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸南地区：伊集、和宇慶、南浜、北浜、津覇、奥間、浜、中城団地 ・ 沿岸北地区：安里、当間、屋宜、添石、伊舎堂、泊、久場、第 2 中城団地 ・ 台地北地区：登又、新垣、北上原、サンヒルズタウン ・ 南上原地区：南上原

(3) 結果概要

●村内一周バス（コミュニティバス）の必要性について（アンケート設問：問6）

回答者の半数が村内一周バスの必要性を感じており、特に交通弱者である20歳未満と70歳以上は、必要性を強く感じていました。

- ・全体では、31%が「あれば便利」と回答しており、最も多い回答でした。
- ・肯定的な意見である「必要性はある」、「絶対に必要」を足し合わせると48%となり、ほぼ半数を占めています。
- ・年齢別でみると、「絶対に必要」と回答したのが、20歳未満が38%、70歳以上では30%と高い一方、20、30歳代では17%、60歳代では19%と低く、自家用車を利用するものとそうでないものとの相違がみられました。

●村内一周バス（コミュニティバス）の利用意向について（アンケート設問：問7）

約6割が利用意向を示しており、必要性と同様に交通弱者の方が意向が強くなる傾向にありました。

- ・31%が「利用する」と回答しており、これに「利用すると思う」を追加すると、58%となりました。
- ・年齢別で比較すると、「利用する」との回答が20歳未満で50%と最も多く、次いで70歳以上が47%となりました。一方、60歳代では「利用しない」との回答は34%にとどまりました。

●村内一周バス（コミュニティバス）の利用目的および目的地について（アンケート設問：問10）

利用目的としては、公共施設までの移動や通院、買い物が多くなりました。
目的地としては、地域による差は少なく、南上原地区やハートライフ病院などが多くなりました。

- ・利用目的としては、「公共施設までの移動時に利用」したいとの回答が最も多く、次いで「病院などの通院時の利用」、「買い物（スーパー等移動）時に利用」の順となりました。
- ・目的地となる施設等については、どの地区でも、「南上原地区（買い物目的）」、「ハートライフ病院（通院目的）」、「公共施設全て（公共施設利用目的）」が上位5項目内に入っていました。
- ・その他、「役場」、「琉大病院」、「高校、大学近くまで、または乗り継ぎ用として」などが挙げられました。

●村内一周バス（コミュニティバス）の料金体系、運行形態について（アンケート設問：問 8、9、12）

料金体系は「一律料金」、運行形態は「路線バス方式での運行」、利用頻度は「不定期」との回答が最も多くなりました。

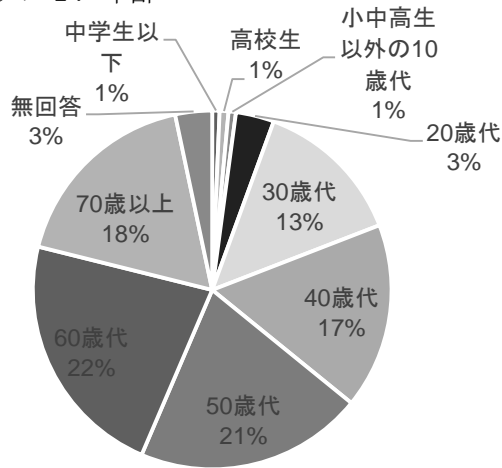
- ・料金体系としては、「一律料金」との回答が最も多く、その金額は「一律 200 円」と「一律 100 円」が同程度でした。
- ・運行形態としては、定時巡回の「路線バス方式」が過半数を占めました。
- ・利用頻度は「不定期」で利用したいとの回答が 36%で、その利用回数平均は 2.1 回/週となりました。「平日」での利用は 19%で、回数平均は 3.3 回/週となりました。

(4) 集計結果

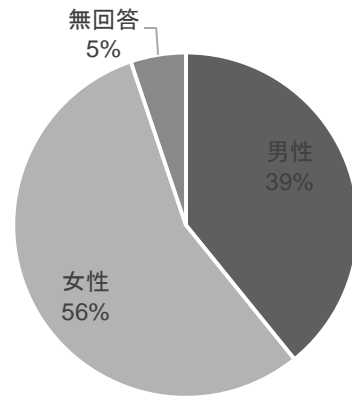
●回答者の属性について

- ・年齢は10歳代（中学生以下、高校生、小中高生以外の10歳代）、20歳代がそれぞれ約3%と低いですが、その他の年代からは概ね同比率で回答がありました。
- ・女性からの回答が5割強、男性からは約4割となり、多少偏りがみられました。
- ・「南上原」在住者からの回答が186件と最も多く、次いで「久場」61件、「和宇慶」55件、「当間」54件となりました。居住地区別で回答件数をみると、台地北地区が約2割と低めですが、概ね2割強と同比率でした。
- ・家族構成は、「夫婦と子供」が約46%と最も多く、次いで「夫婦」が約17%となりました。
- ・居住年数は、「20年以上」が約46%と最も多く、次いで「10～20年」が約21%、「5～10年」が約13%となっており、比較的長期居住者からの回答が多くなりました。

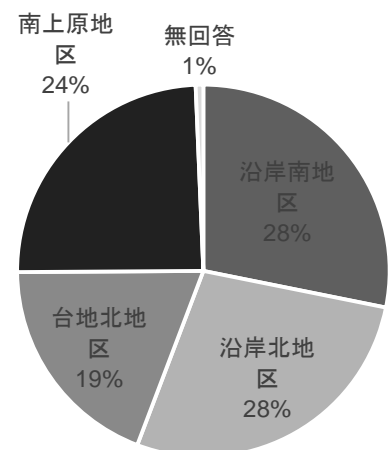
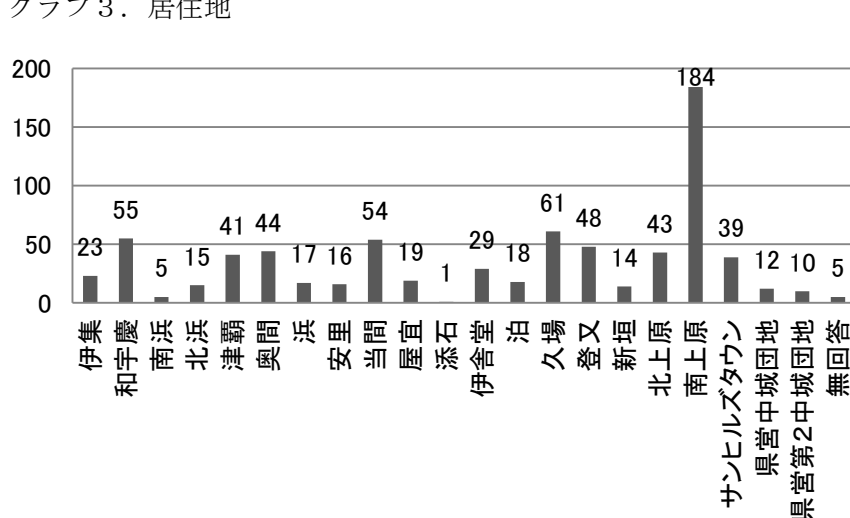
グラフ1. 年齢



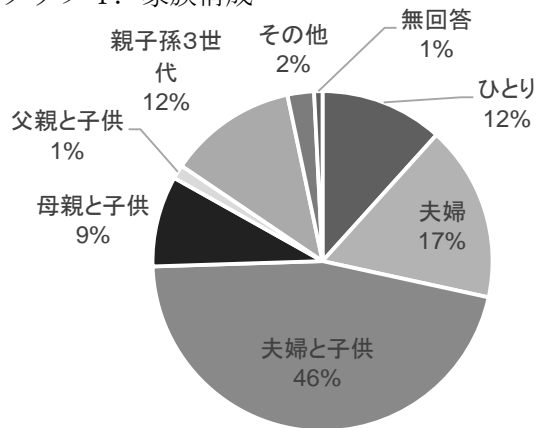
グラフ2. 性別



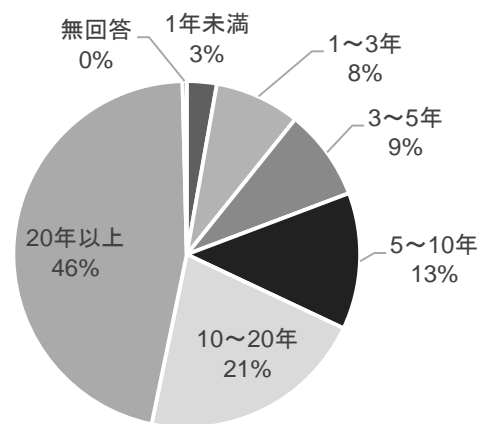
グラフ3. 居住地



グラフ4. 家族構成



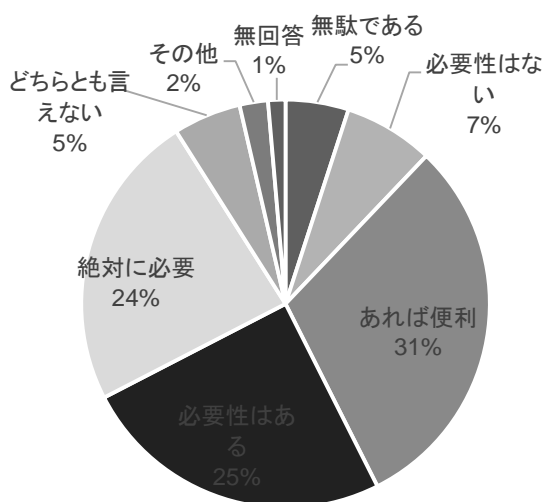
グラフ5. 居住年数



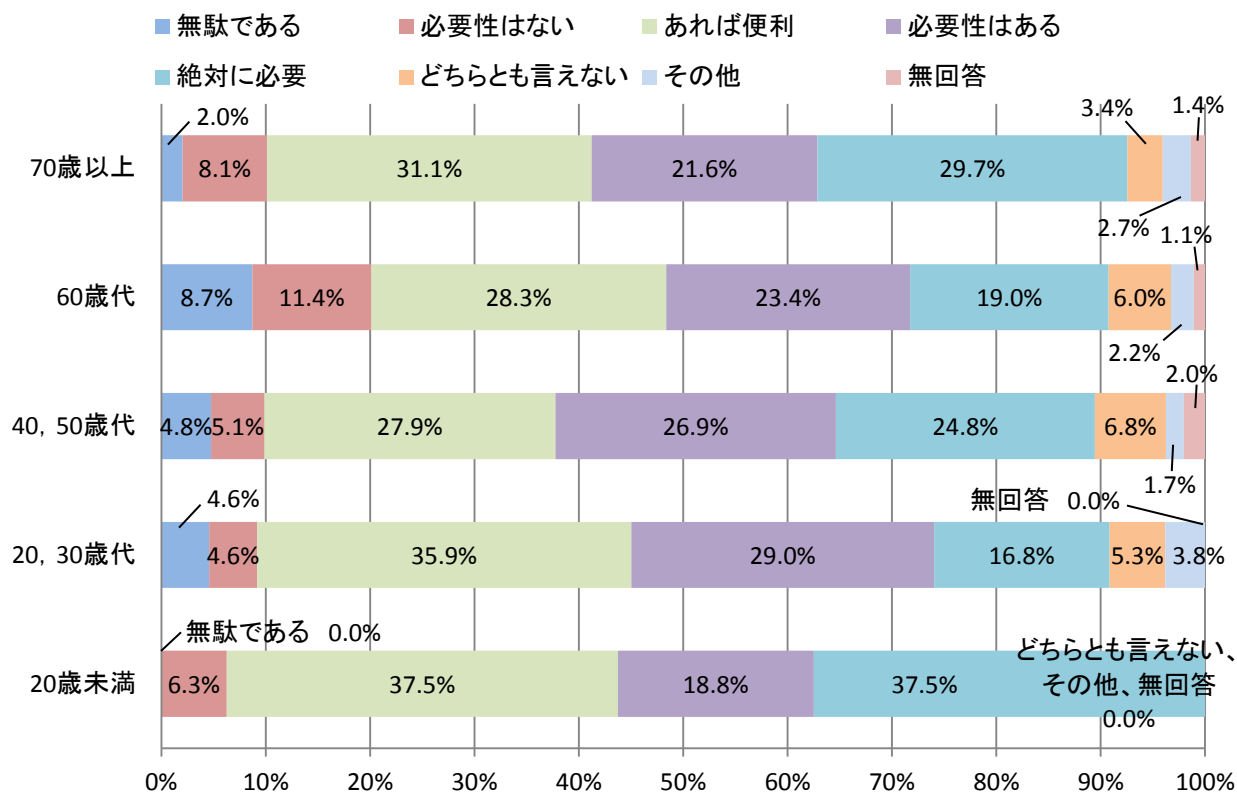
●村内一周バスの必要性について

- ・肯定的意見（必要性はある、絶対に必要）の回答が約 48%、中間的意見（あれば便利）が約 31%、否定的意見（無駄である、必要性はない）が約 12%となりました。
- ・「その他」の記述回答には、「料金が安ければ利用する」、「将来、車の運転が出来なくなった時に必要」などの意見が挙がっていました。
- ・年齢別にみると、「あれば便利」、「必要性はある」の割合に相違はみられないが、「絶対に必要」の割合は、20歳未満、70歳以上において3割~4割弱となっており、他年代と相違がみられました。
- ・居住地区別にみると、年齢別と同様に「あれば便利」、「必要性はある」の割合に相違はみられませんでした。台地北地区においては、「絶対に必要」の割合が約32%と最も多くなりました。

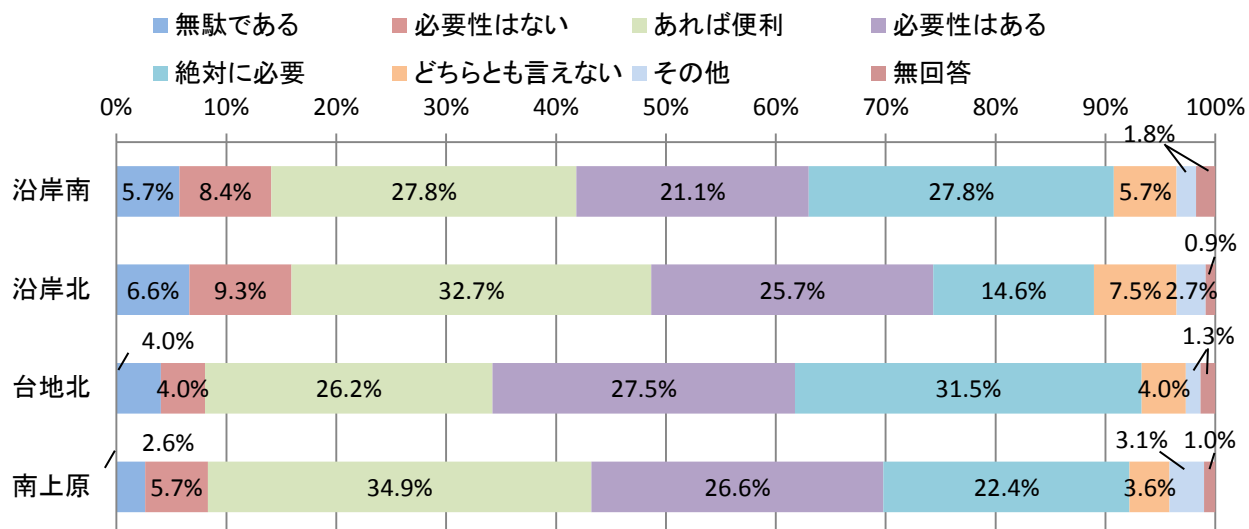
グラフ6. 村内一周バスの必要性



グラフ7. 年齢別クロス集計《村内バスの必要性》



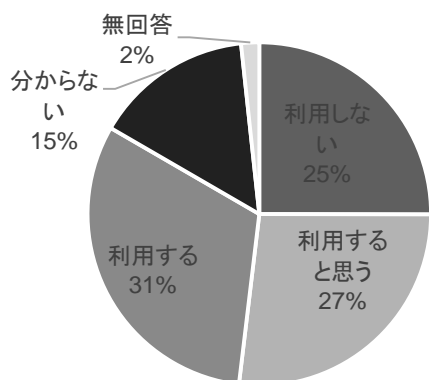
グラフ8. 居住地区別クロス集計《村内バスの必要性》



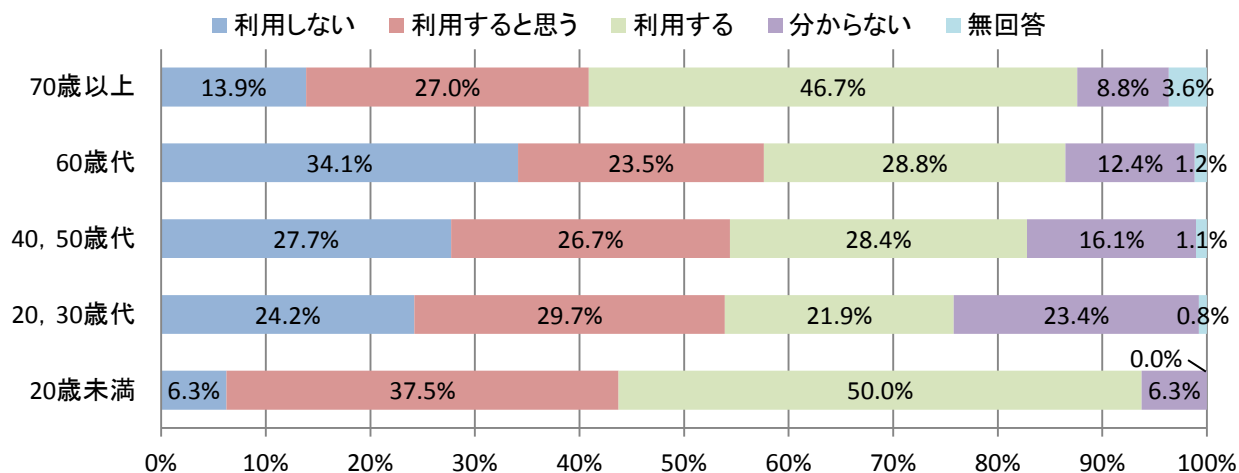
●村内一周バスの利用意向

- ・「利用する」との回答が3割に達し、最も多い。これに「利用すると思う」を追加すると、約6割が利用する可能性があるとして回答していました。
- ・年齢別でみると、20歳未満と70歳以上の約半数が「利用する」と回答しており、「利用すると思う」を合わせると、20歳未満が約88%、70歳以上が約74%となっていました。
- ・居住地区別でみると、最も利用意向が強いのは台地北地区で、「利用すると思う」、「利用する」を合わせると、約68%となりました。最も利用意向が弱いのは沿岸北地区で、約3割が「利用しない」と回答しました。

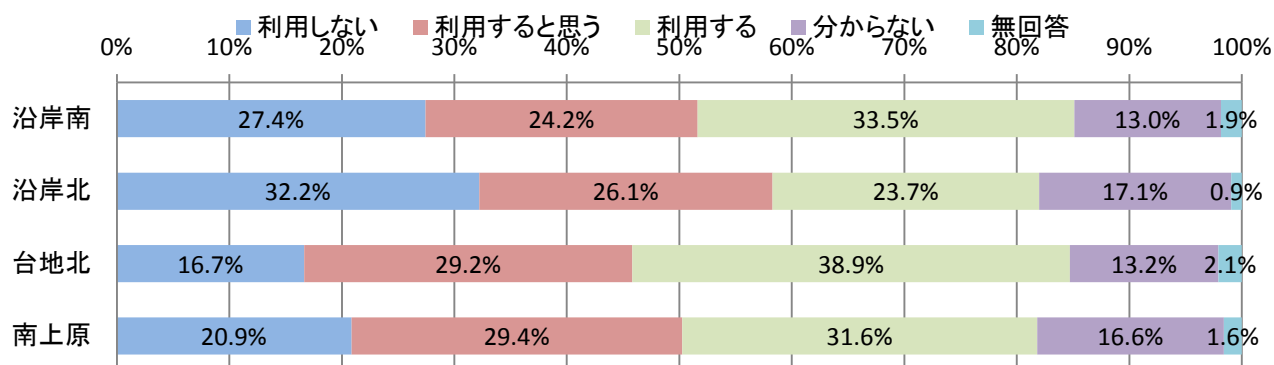
グラフ9. 村内一周バスの利用意向



グラフ10. 年齢別クロス集計《村内一周バスの利用意向》



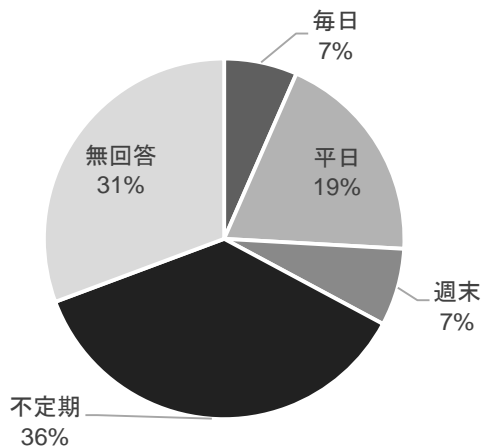
グラフ11. 居住地区別クロス集計《村内一周バスの利用意向》



●利用する場合の利用頻度

- ・「不定期」で利用との回答が約 3 分の 1、「平日」が 2 割、「毎日」、「週末」が 1 割以下となりました。

グラフ 1 2. 利用する場合の利用頻度



利用回数平均

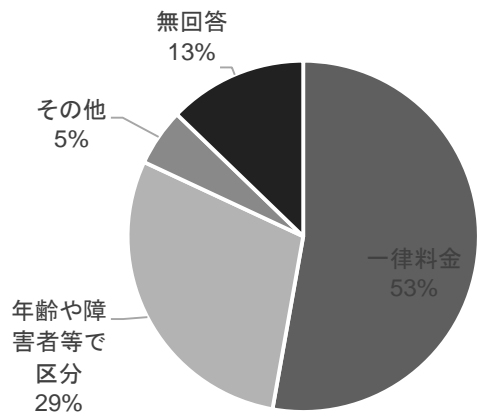
平日……………約 3.3 回/週
 週末……………約 1.5 回/週
 不定期…………約 2.1 回/週

※回数記述があったもののみ集計

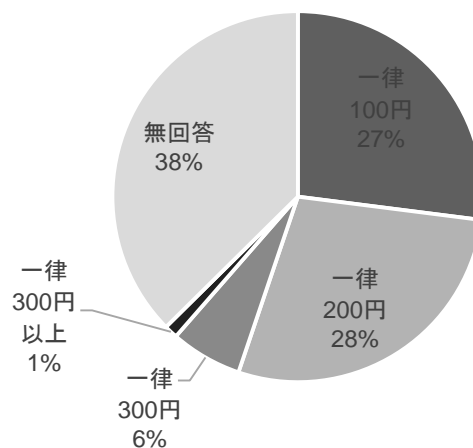
●料金設定について

- ・料金設定は、「一律料金」が大半を占め、「年齢や障害者等で区分」は約 3 割となりました。
- ・その他の記述回答には、「回数券等の発行」、「区間による料金設定」、「月額上限制」などの意見が挙がっていました。
- ・一律における料金設定としては、「一律 200 円」、「一律 100 円」との回答が多くなりました。

グラフ 1 3. 料金設定



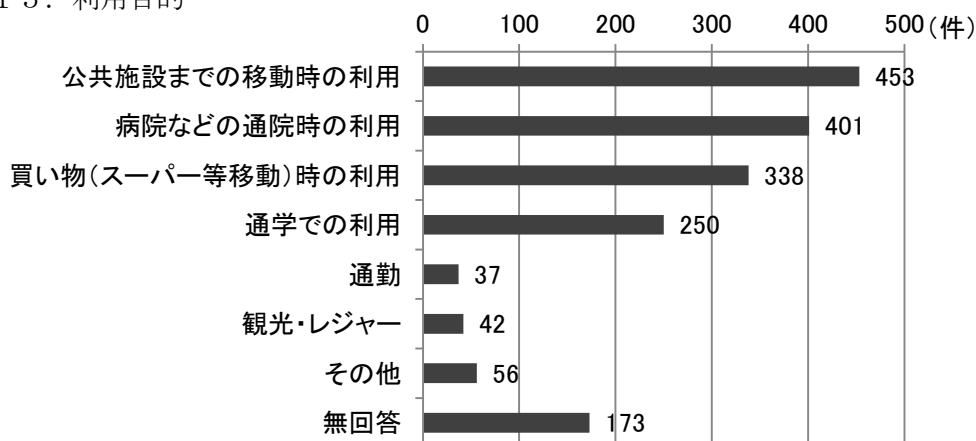
グラフ 1 4. 一律料金の内訳



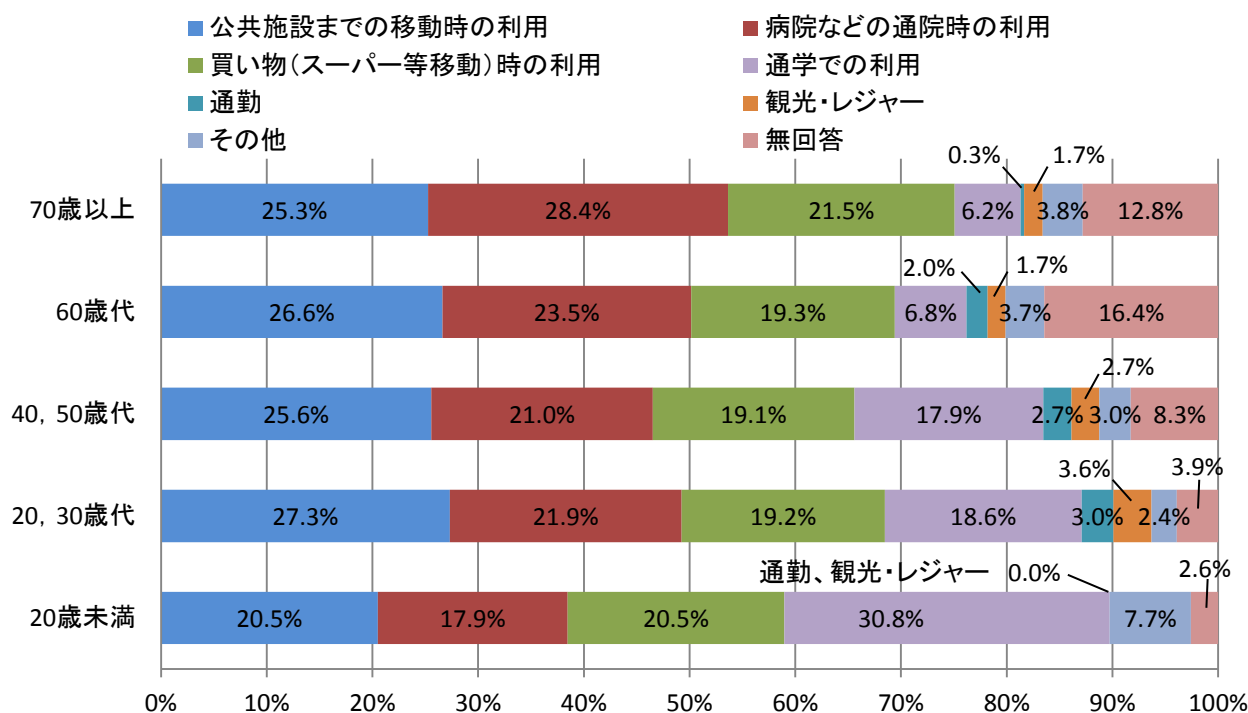
●利用目的について

- ・目的としては、「公共施設までの移動時の利用」が26%と最も多く、次いで「病院などの通院時の利用」が23%、「買い物（スーパー等移動）時の利用」が19%となりました。「通勤」、「観光・レジャー」での利用は少なくなりました。
- ・年齢別にみると、20歳未満の3割が「通学での利用」となりました。しかし、その他の年齢別での特徴はほとんどみられませんでした。

グラフ15. 利用目的



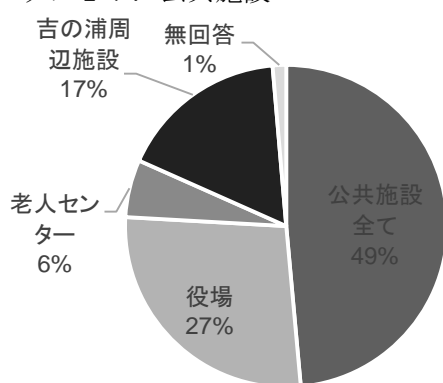
グラフ16. 年齢別クロス集計《利用目的》



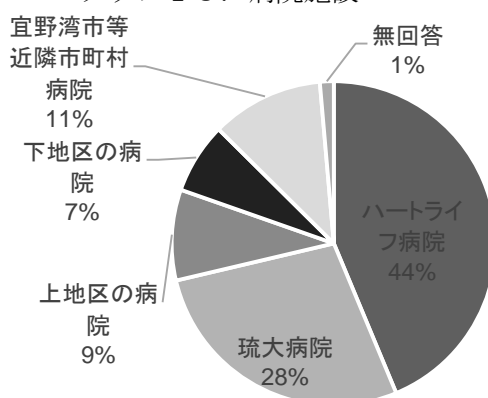
●目的地について

- ・公共施設等の目的地としては、「公共施設全て」との回答が最も多く、次いで「役場」、「吉の浦周辺施設」となりました。
- ・病院施設の目的地としては、「ハートライフ病院」が最も多く、次いで「琉大病院」、「宜野湾市等近隣市町村病院」となりました。
- ・買い物の目的地としては、約4分の3を「南上原地区」が占めており、次いで「久場地区」、「伊集地区」が多くなりました。
- ・通学時の利用としては、「高校、大学近くまで、または乗り継ぎ用として」利用したいとの意向が強く、普天間高校や琉球大学附属小・中学校などの意見が多く挙がっていました。
- ・全選択項目の回答数をみると、上位3項目が「南上原地区（買い物目的）」、「公共施設全て（公共施設利用目的）」、「ハートライフ病院（通院目的）」であり、約300件となっている。

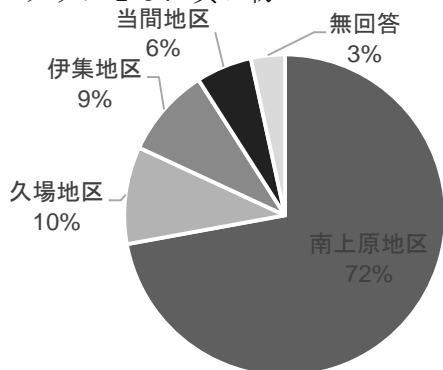
グラフ17. 公共施設



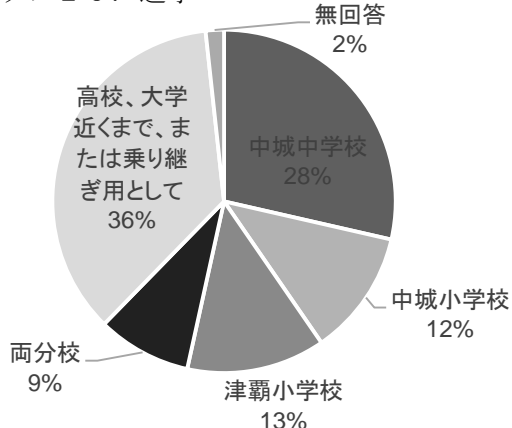
グラフ18. 病院施設



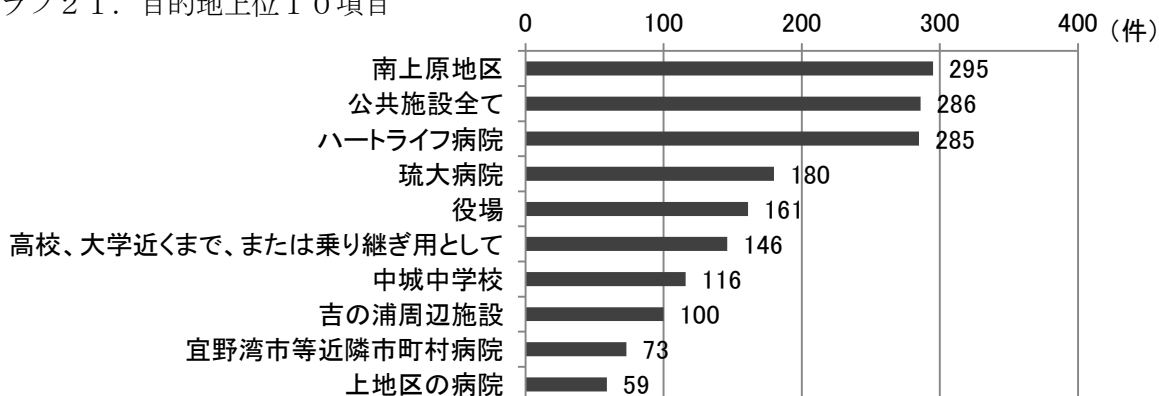
グラフ19. 買い物



グラフ20. 通学



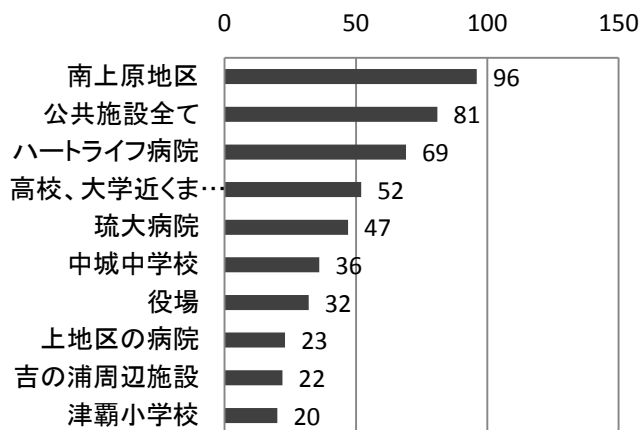
グラフ21. 目的地上位10項目



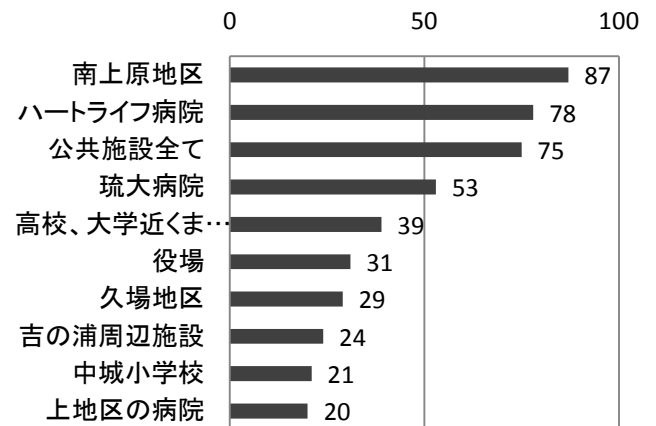
●居住地区別でみる目的地について

- ・沿岸南地区では、「南上原地区（買い物目的）」が96件と最も多く、次いで「公共施設全て（公共施設利用目的）」81件、「ハートライフ病院（通院目的）」69件となりました。
- ・沿岸北地区では、沿岸南地区同様に上位3項目は同じですが、「ハートライフ病院（通院目的）」が78件、「公共施設全て（公共施設利用目的）」が75件と、順位が逆転しました。
- ・台地北地区も前述2地区と上位3項目は同じであるが、「ハートライフ病院（通院目的）」が66件と最も多く、「公共施設すべて（公共施設利用目的）」、「南上原地区（買い物目的）」が53件となりました。
- ・南上原地区では、「公共施設全て（公共施設利用目的）」が76件と最も多くなっており、次いで「ハートライフ病院（通院目的）」70件、「役場（公共施設利用目的）」58件となっており、他3地区と順位が異なっていました。

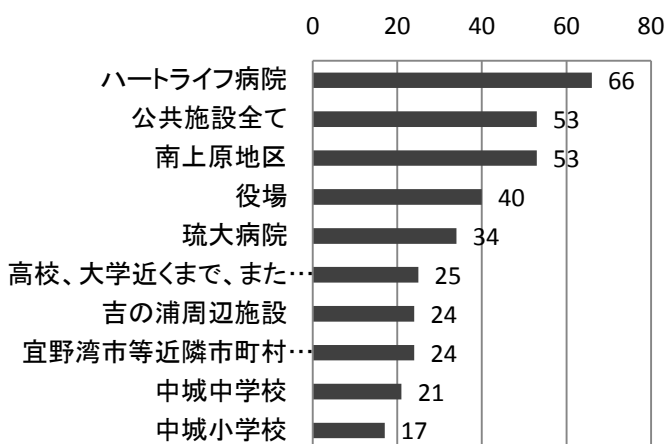
グラフ22. 沿岸南地区



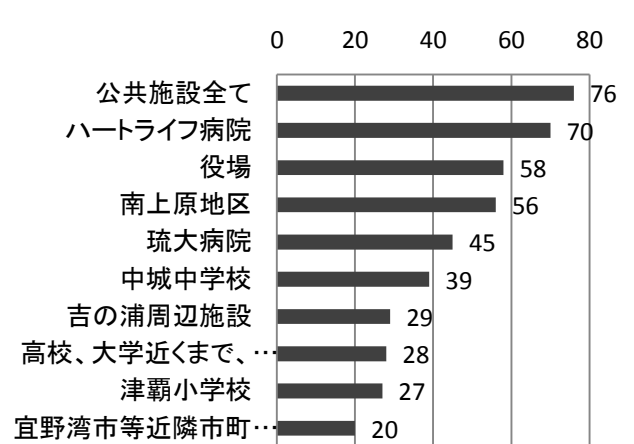
グラフ23. 沿岸北地区



グラフ24. 台地北地区



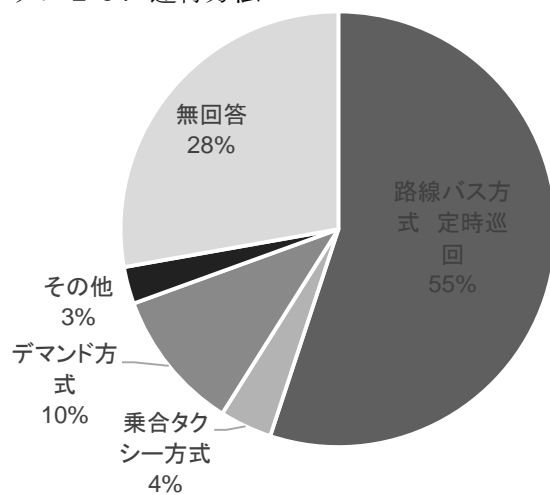
グラフ25. 南上原地区



●運行方法について

- ・運行方法としては、「路線バス方式」が過半数を占め、次いで「デマンド方式」が1割となりました。
- ・その他の意見として「年代により運行方式を変える（学生は路線バス、高齢者はデマンド方式）」や「時間帯により運行方式を変える」などが挙がっていました。

グラフ26. 運行方法



2. 施設利用者アンケート調査

高齢者や学生等、交通弱者の潜在的な公共交通に関するニーズを把握し、実験運行計画と生活交通ネットワーク計画へ反映させるため、施設利用者等へのアンケート調査を実施しました。

(1) 主要施設利用者アンケート

①目的

交通弱者の利用が多いと考えられる施設において、来訪者の交通手段の実態を明らかにし、潜在的な利用ニーズを把握することを目的とします。

②対象

中城村民、特に高齢者等の交通弱者を主な調査対象とします。調査施設は、日常的な生活の中で利用される商業施設、医療施設、公共施設の中から、調査対象者の利用が多いと考えられる「サンエーなかぐすく店（商業施設）」、「ハートライフ病院（医療施設）」、「琉球大学医学部附属病院（医療施設）」、「中城村老人福祉センター（公共施設）」を選定しました。調査の際には、高齢者と思われる方を中心に協力依頼を行いました。また、「中城村老人福祉センター」は施設で行われている老人クラブ活動を3つ抽出し調査を行いました。

③調査方法

商業、医療施設での調査は利用者の多い時間帯で調査を行い、調査員が直接聞き取りで回収を行いました。公共施設の老人クラブ活動での調査は、クラブ活動時間に調査員が赴き、その場で配布、回収を行いました。

④調査対象施設、調査実施日及び回収数

施設名	調査日時	回収数（件）
サンエーなかぐすく店	平成 25 年 11 月 10 日（日）10:00～19:00	59
ハートライフ病院	平成 25 年 11 月 13 日（水）9:00～12:00	16
琉球大学医学部附属病院	平成 25 年 11 月 15 日（金）9:00～15:00	10
中城村老人福祉センター（クラブ活動）	平成 25 年 11 月 12 日（火）、14 日（木）	39
▶歌声、大正琴部（琴三会）	12 日（火）午前	(3)
▶民謡教室部（レク部）	午後	(31)
▶囲碁サークル	14 日（木）午後	(5)
計 4 施設	合計	124

⑤結果概要

●運転免許と自家用車の保有について（アンケート設問：問5）

回答者の約7割が運転免許を保有しており、その9割以上が自由に使える自家用車を保有していました。

- ・高齢者を中心に回答者の約7割が運転免許を保有していました。
- ・免許保有者のうち、94.3%が自由に使える自家用車を保有していました。

●調査対象施設を利用する時の主な交通手段について（アンケート設問：問6）

自家用車が6割強以上を占めており、自らの交通手段を持たない方は家族による送迎での来訪が多く、バスやタクシーなど公共交通の利用は少ない結果となりました。

- ・全体としては、66%が自家用車での来訪となりました。また、家族による送迎が10%となっており、自家用車の次に多い交通手段でした。
- ・公共交通ではバスが5%、タクシーが4%と、他の交通手段と比べ低い割合となりました。
- ・自家用車での来訪を施設別にみると、「琉球大学附属病院」では約8割と最も高い割合を占めていました。一方、「中城村老人福祉センター」では、約5割と他施設と比べると最も低い割合となりました。
- ・公共交通（バス及びタクシー）を利用しての来訪は、「中城村老人福祉センター」が最も多い結果となりました。

●調査対象施設の利用頻度と時間帯について（アンケート設問：問7、8、9）

商業施設では土日、時間帯は朝と夜の利用が多くなりました。医療施設の利用頻度は低く、時間帯は午前の利用が多くなりました。老人福祉センターの利用頻度は週数回で、午後の利用が多くなりました。

- ・商業施設では頻度は土日に集中し、時間帯は10時～11時半、17時～19時での利用が多い結果となりました。
- ・医療施設では月や年に数回と利用頻度は低くなりましたが、時間帯は午前での利用が多い結果となりました。
- ・中城村老人福祉センターでは利用頻度は週数回となり、時間帯は午後の利用が多い結果となりました。

●公共交通の利用頻度とその利用目的について（アンケート設問：問 10）

回答者の大半は公共交通を利用していません。利用する方は平日に用事や通院で利用することが多いです。

- ・バス、タクシーを「ほとんど利用しない」との回答が約 8 割を占める結果となりました。
- ・バスを利用する方は「週 3～4 回（平日）」との回答が多く、その目的としては「用事」が 27%、「通院」と「買物」がそれぞれ 13%となりました。
- ・タクシーを利用する方は「週 1～2 回（平日）」との回答が多く、その目的としては「通院」が 47%、「用事」が 20%となりました。

●中城村におけるバス交通の課題について（アンケート設問：問 12）

「便数が少ない」や「待ち時間が長い」などサービス水準についての課題、「平坦地区と台地地区を結ぶ路線がない」など地形的課題を感じている方が多いようです。

- ・「便数が少ない」が 52 件、「待ち時間が長い」が 41 件とバス交通のサービス水準の課題が多く挙げられました。
- ・また「平坦地区と台地地区を結ぶ路線がない」が 35 件と地形的課題を感じている方も多く見受けられました。

●村営バスの利用意向について（アンケート設問：問 11、13、14）

半数以上が村営バスの利用意向を示しており、運賃は「200 円」との回答が多くなりました。経由地としては中城村役場、ハートライフ病院、サンエーなかぐすく店など日常生活に必要な施設が多く挙げられました。

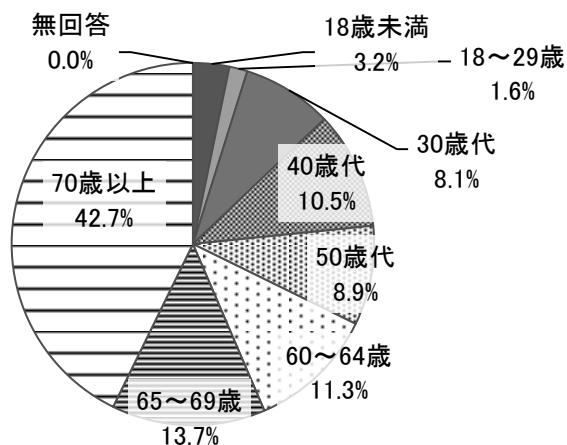
- ・利用意向としては「是非利用したい」が 35%、「たまに利用したい」が 25%で、約 6 割が利用意向を示しました。
- ・運賃は「200 円」が 57%と最も多くなりました。
- ・バスで行きたい、行けるようになればいい場所としては、「中城村役場」、「ハートライフ病院」が 35 件と最も多く、次いで「サンエーなかぐすく店」の 29 件となりました。

⑥集計結果

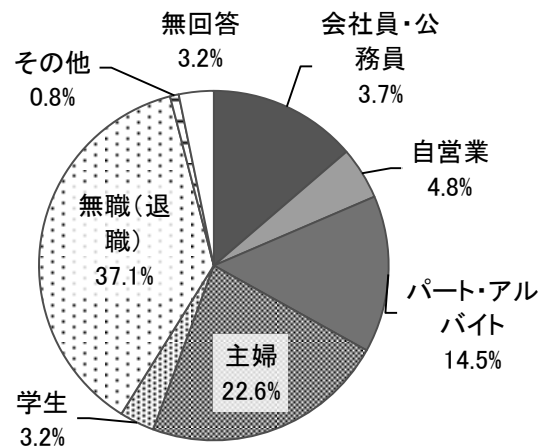
●回答者の属性について

- ・自ら交通手段を持たない方が多いと考えられる高齢者を中心に調査を行ったため、回答者の年齢は「70歳以上」が約4割を占める結果となりました。
- ・なお、60歳代は定年後も仕事を継続している方や日常的に自動車を運転されている方も多いため、「60～64歳」と「65～69歳」の2区分で調査を行いました。「60～64歳」、「65～69歳」を合わせた60歳代では約15%となり、「70歳以上」に次いで回答が多い年齢層でした。
- ・職業は年齢層の影響から「無職」が37.1%と最も多くなり、次いで「主婦」が22.6%、「パート・アルバイト」が14.5%の順となりました。
- ・居住地は人口が多く、調査実施施設の1つである「サンエーなかぐすく店」が位置する「南上原」が最も多く、全体の約2割を占めました。平坦地区と台地地区に分けてみると、平坦地区が約6割、台地地区が約3割、村外が約1割となりました。

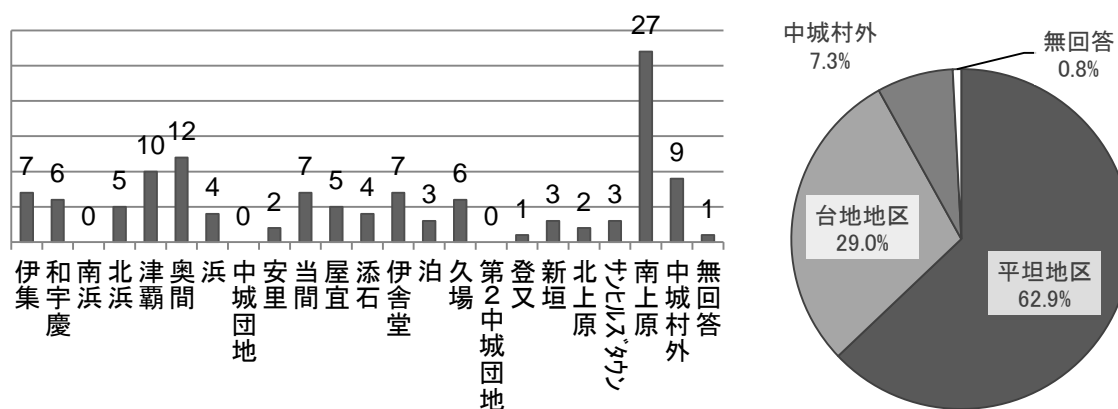
グラフ1. 年齢



グラフ2. 職業



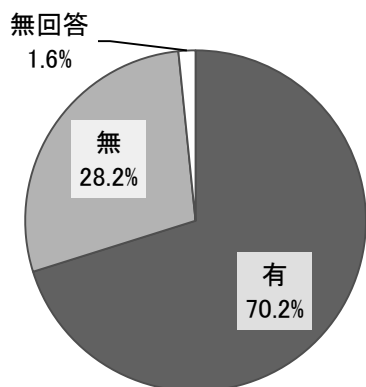
グラフ3. 居住地



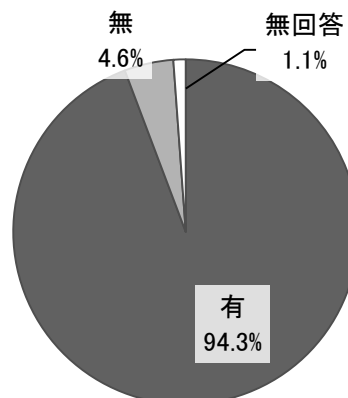
●運転免許、自家用車の保有について

- ・回答者の約7割が運転免許を保有していました。
- ・運転免許保有者のうち、約9割が自由に使える自家用車を保有していました。

グラフ4. 運転免許保有の有無



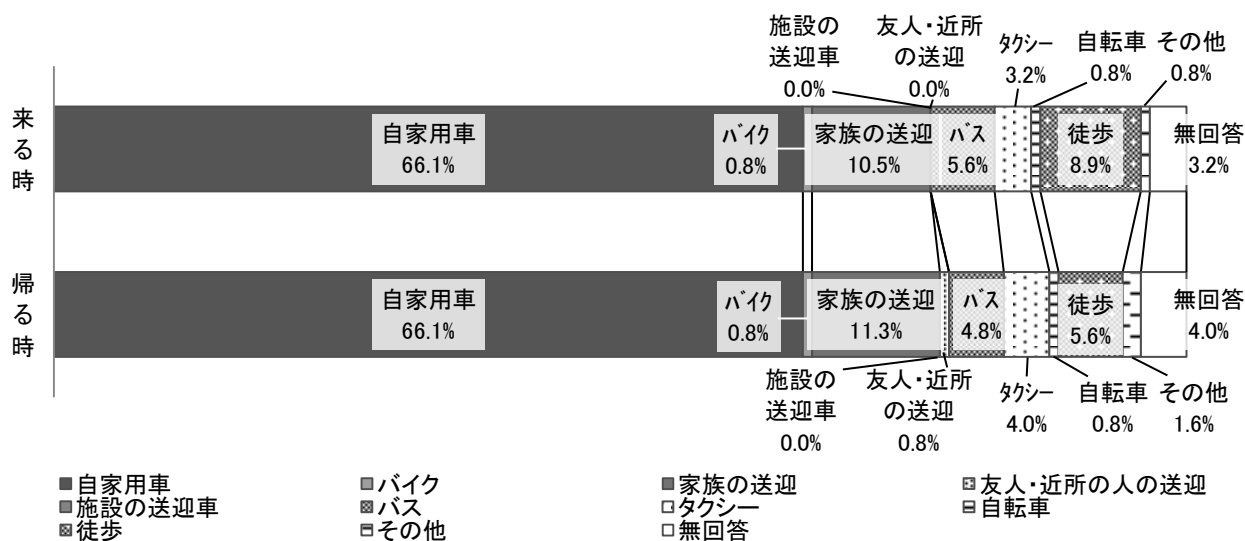
グラフ5. 自家用車の有無



●施設を利用する時の主な交通手段及びバス・タクシーの利用頻度と目的

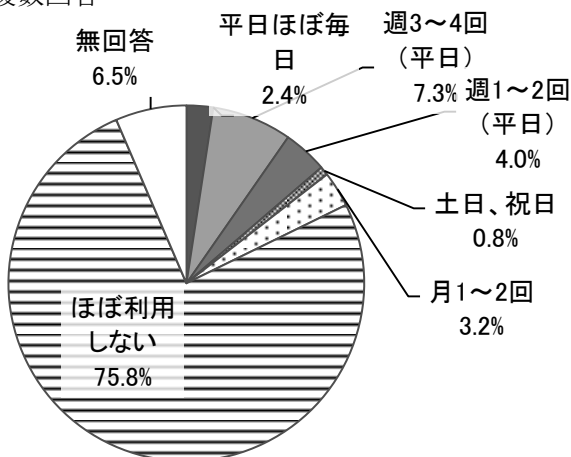
- ・主な交通手段は「自家用車」で、全体の66.1%に達しました。
- ・自ら交通手段を持たない方の交通手段としては「家族の送迎」が最も多くなりました。
- ・バスの利用頻度は「ほぼ利用しない」との回答が75.8%と最も多くなりました。その理由としては「自分で自由に使える車を持っているから」との意見が多くなりました。
- ・バスを利用する時の目的としては「用事」が最も多く、約3割を占めました。
- ・タクシーの利用頻度は「ほぼ利用しない」との回答が79.8%で最も多くなりました。その理由としては「運賃が高い」などの意見がありました。
- ・タクシーを利用するときの目的としては、「通院」が最も多く、回答の半数弱を占めました。

グラフ6. 施設を利用する時の主な交通手段



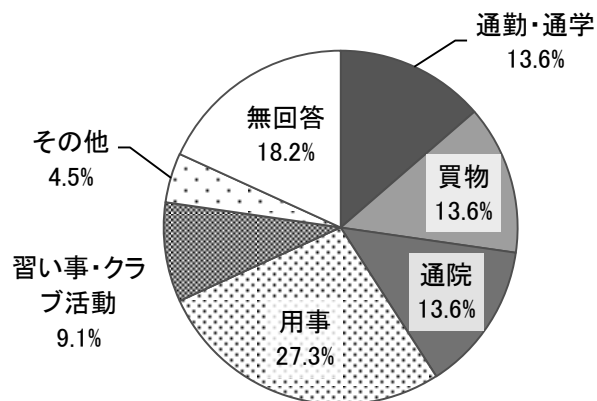
グラフ7. バスの利用頻度

※複数回答



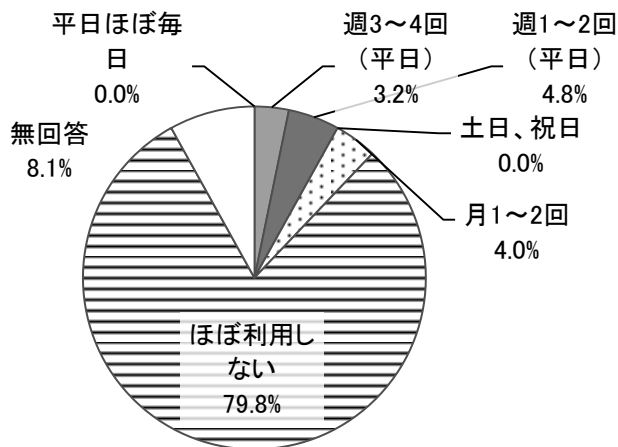
グラフ8. バスの利用目的

※「ほぼ利用しない」、「無回答」を除く



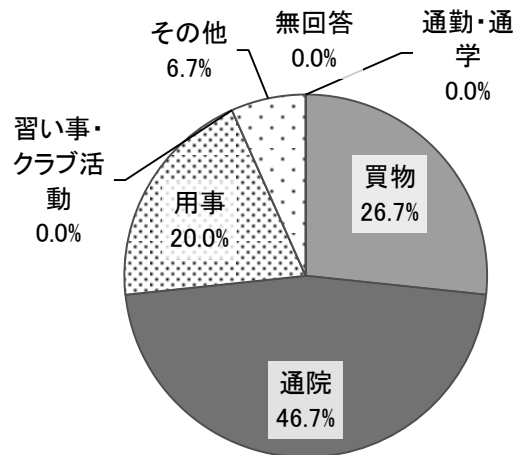
グラフ9. タクシーの利用頻度

※複数回答



グラフ10. タクシーの利用目的

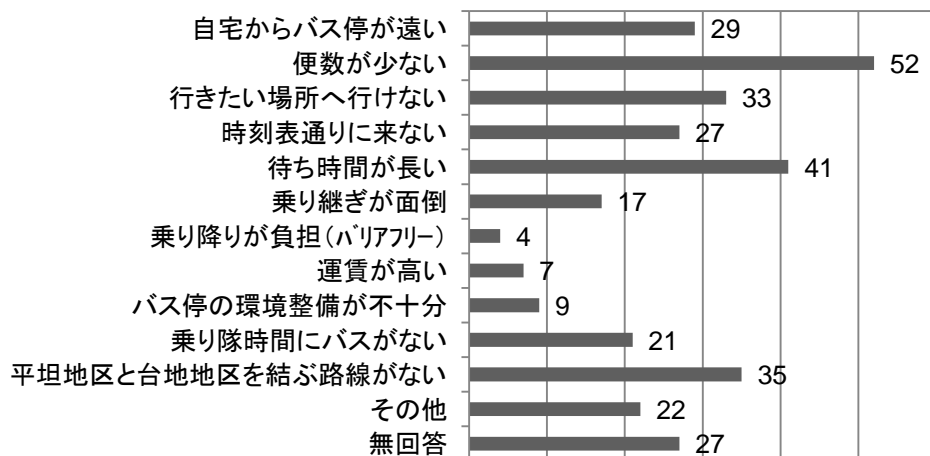
※「ほぼ利用しない」、「無回答」を除く



●バス交通の課題

- ・バス交通の課題は「便数が少ない (52 件)」が最も多く、次いで「待ち時間が長い (41 件)」、「平坦地区と台地地区を結ぶ路線がない (35 件)」の順となりました。
- ・一方、「乗り降りが負担 (バリアフリー)」や「運賃が高い」ことに課題を感じている人は少ない結果となりました。

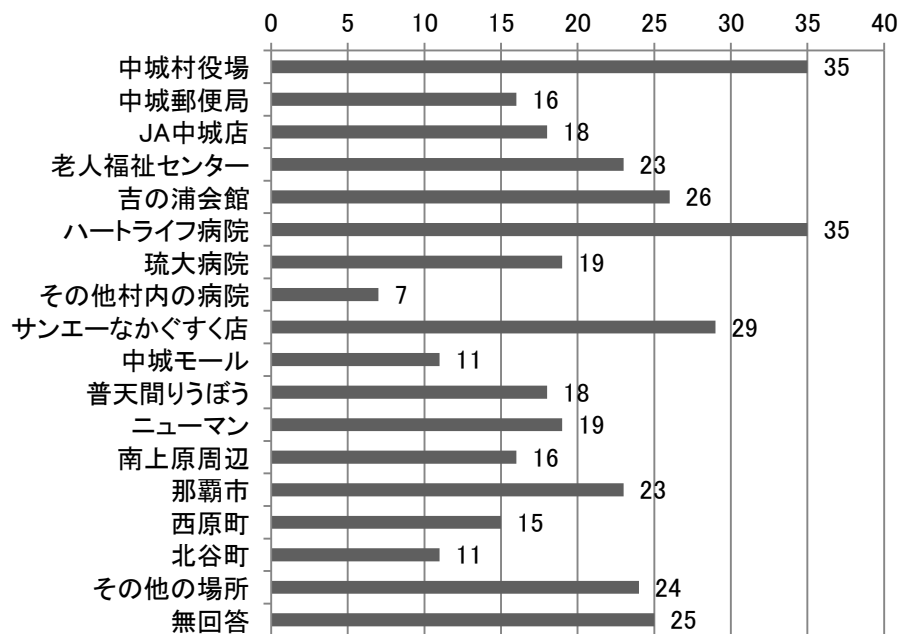
グラフ11. バス交通の課題 (複数回答)



●バスに乗って行きたい、行けるようになるという場所

- ・「中城村役場（35件）」と「ハートライフ病院（35件）」が最も多く、次いで「サンエーなかぐすく店（29件）」となりました。
- ・「琉球大学医学部附属病院」は「ハートライフ病院」と比較すると約2分の1程度となる19件でした。
- ・近隣市町では「那覇市（23件）」が最も多くなりました。
- ・「その他の場所」の記述では『宜野湾市』との回答が多く見受けられました。

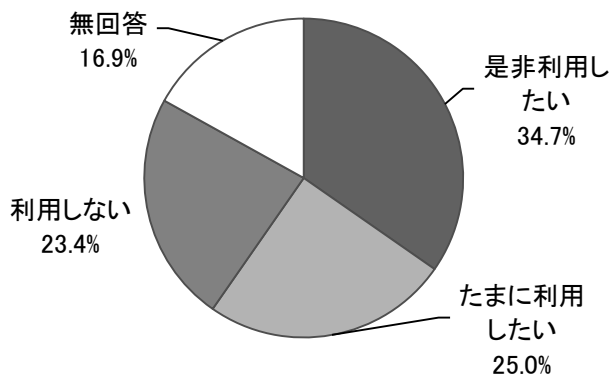
グラフ12. バスに乗って行きたい、行けるようになるという場所（複数回答）



●村営バスへの利用意向と運賃について

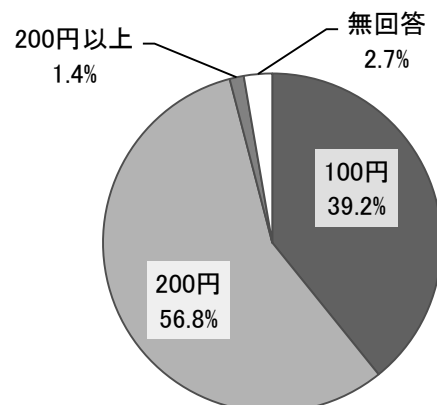
- ・「是非利用したい」との回答が34.7%で最も多くなりました。「たまに利用したい」との回答は25.0%で、「是非利用したい」と合わせると約6割が利用意向を示しました。
- ・運賃は「200円」が56.8%、「100円」が39.2%と、「200円」の回答が少し多くなりました。

グラフ13. 利用意向



グラフ14. 運賃

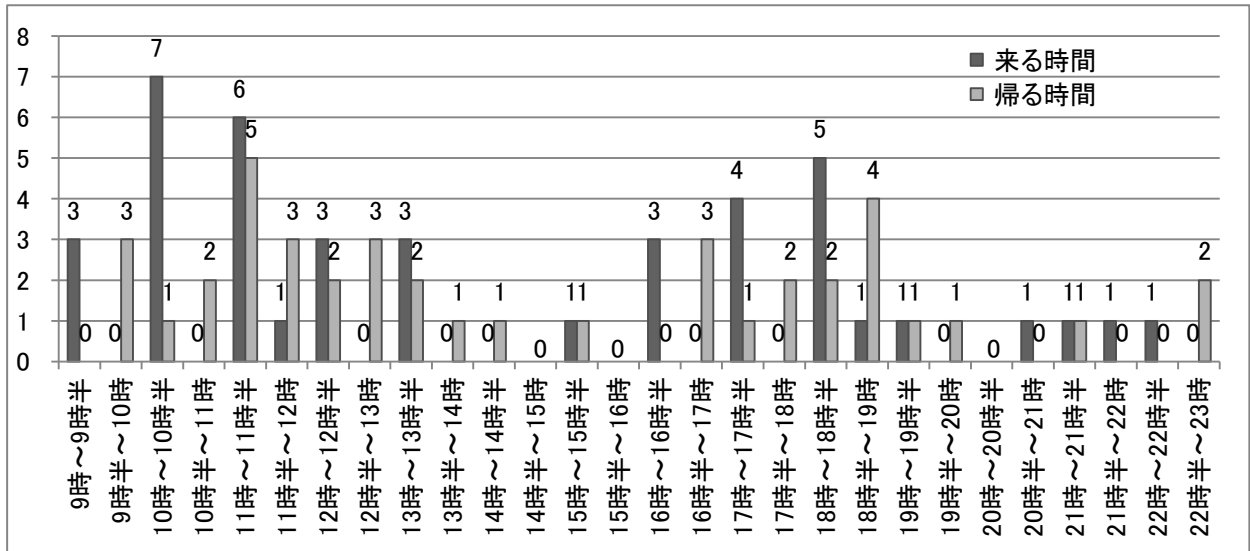
※「利用しない」、「無回答」を除く



●各施設の利用時間帯

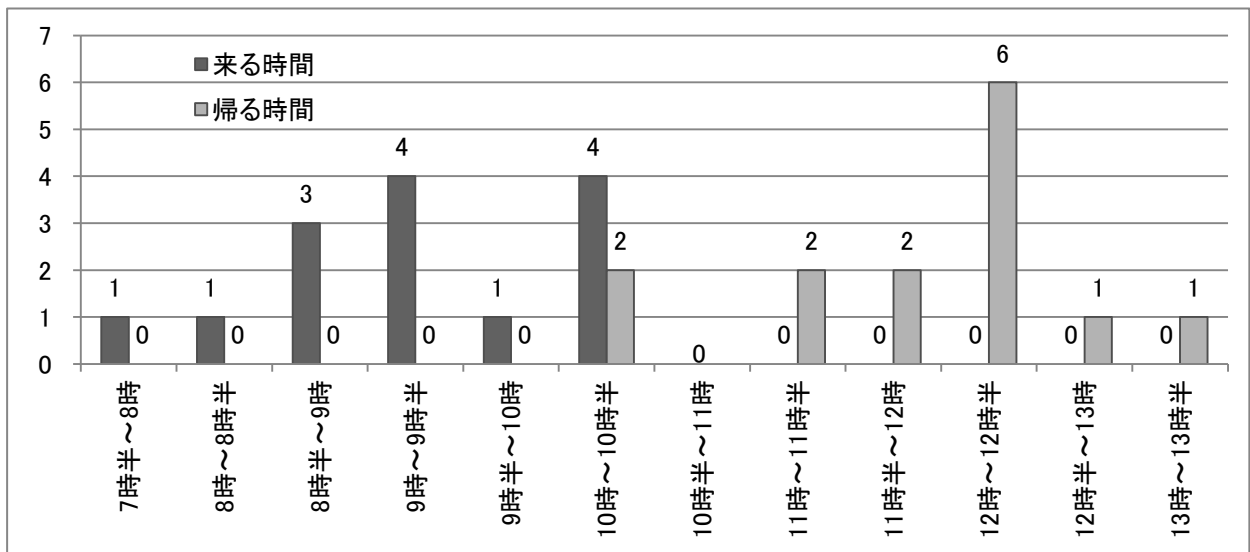
○サンエーなかぐすく店

- ・時間帯にバラツキはありますが、来る時間帯は「10時～10時半」と「18時～18時半」、帰る時間帯は「11時～11時半」と「19時～19時半」が多くなりました。
- ・概ねの滞在時間は20～30分程度との回答が多くなりました。



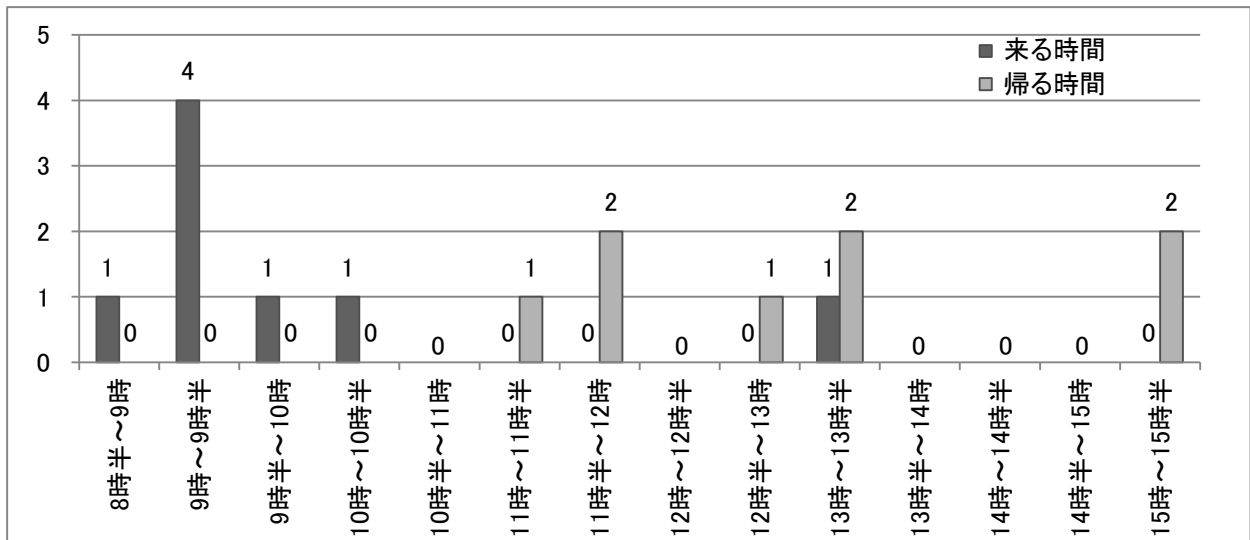
○ハートライフ病院

- ・施設の利用時間帯は7時半～13時半となりました。
- ・来る時間帯は「9時～9時半（4件）」と「10時～10時半（4件）」が最も多くなりましたが、予約時間の関係もあり、7時半～10時半と幅がありました。
- ・帰る時間帯は「12時～12時半（6件）」が最も多かったが、10時～13時半に渡っていました。
- ・滞在時間は概ね2～3時間との回答が多くなりました。



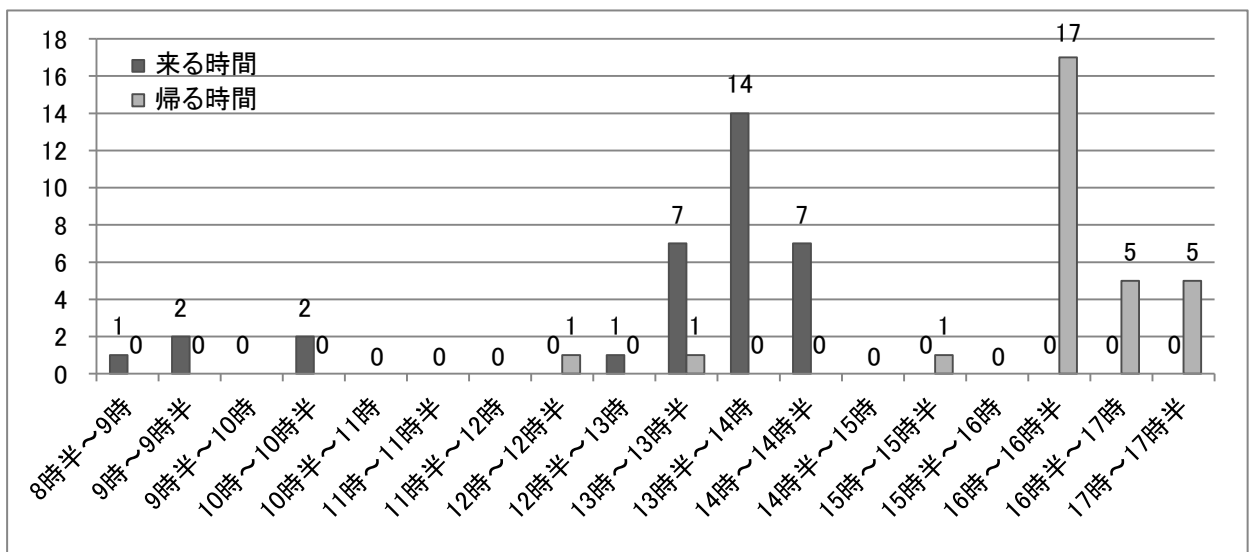
○琉球大学医学部附属病院

- ・施設の利用時間帯は8時半～15時半となりました。
- ・来る時間帯は「9時～9時半（4件）」が最も多くなりましたが、8時半～10時半に渡っており、「13時～13時半」の方もいらっしゃいました。
- ・帰る時間帯にはばらつきがみられ、11時～15時半に渡っていました。
- ・調査時は、午後の時間帯においても、見舞いなどと思われる人の出入りが見られました。
- ・ハートライフ病院同様、滞在時間は概ね2～3時間との回答が多くなりました。



○中城村老人福祉センター

- ・施設の利用時間帯は8時半～17時半となりました。
- ・来る時間帯は13時～14時半に集中しており、目的のクラブ活動が始まる前が多くなりました。
- ・帰る時間帯は「16時～16時半（17件）」が最も多く、こちらも目的のクラブ活動の終了時間付近が多くなりました。



(2) 高校生アンケート

①目的

現在の路線バスでは通学が不便な近隣市町の高等学校へ通う高校生の通学手段の実態を明らかにし、潜在的な利用ニーズを把握することを目的とします。

②対象

近隣市町の高等学校へ通う中城村在住の高校生を対象に調査を行った。また、近隣市町の高等学校の抽出では、中城村からのバスによる通学が不便と考えられる学校を選定しました。

③調査方法

対象となる高等学校から直接中城村在住の生徒にアンケート調査票を配布していただき、回収は郵送にて行いました。

④調査対象高等学校、調査時期と回収率

高等学校名	中城村在住生徒数	回収数(回収率)	調査時期
西原高等学校	20名	7件(35.0%)	平成25年11月12日～25日(14日間)
普天間高等学校	85名	44件(51.8%)	〃
中部商業高等学校	66名	23件(34.8%)	平成25年11月14日～30日(17日間)
合計	171名	74件(43.3%)	

⑤結果概要

●主な通学手段と時間帯について (アンケート設問：問4)

通学手段は家族による送迎が半数以上を占めています。登校時間帯は7時～8時半に集中していますが、下校時間帯は16時～21時とばらつきがみられます。

- ・主な通学手段は「家族の送迎」で登校時は77%、下校時は54%となりました。
- ・バス利用は、登校時が14%、下校時が20%でした。
- ・登校時間帯は早朝講座や練習等では6時頃からであり、通常授業では7時頃から登校する学生が見られ、授業開始時間の8時半に合わせて集中していました。
- ・下校時間帯は通常授業終了時間の16時からで、部活動等により21時まで分散していました。

●公共交通の利用頻度とその利用目的について（アンケート設問：問5、6）

「ほぼ利用しない」とした回答がバスは約3割、タクシーは約7割となりました。利用する場合の半数以上が通学目的で、利用頻度はバスで平日、タクシーで月1～2回が多くなりました。

- ・「ほぼ利用しない」との回答が、バスが約3割、タクシーが約7割となりました。
- ・バスを利用する頻度は「平日ほぼ毎日」が23%となっており、通学での利用が半数を占めました。
- ・タクシーを利用する頻度は「月1～2回」が11%となっており、こちらも通学での利用が半数を占めました。

●中城村におけるバス交通の課題について（アンケート設問：問8）

「行きたい場所へ行けない」や「乗り継ぎが面倒」など、経路についての課題が多く挙げられました。

- ・「行きたい場所へ行けない」が56件と最も多く、次いで「乗り継ぎが面倒」が40件であった。

●村営バスの利用意向について（アンケート設問：問7、9）

9割の回答者が利用意向を示しました。経由地としては「通っている高校」が最も多く、次いで「北谷町」、「宜野湾市」と村外の意見が多く挙げられました。

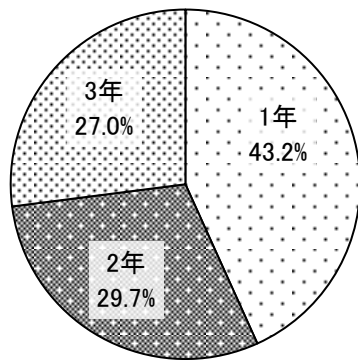
- ・「是非利用したい」が80%、「たまに利用したい」が11%で全体の約9割が利用意向を示しました。
- ・バスに乗って行きたい場所として、「通っている高校」との回答が54件と最も多く、次いで「北谷町」が45件、「宜野湾市」が38件となり、村内よりも村外への移動に対する意向が多くなりました。

⑥集計結果

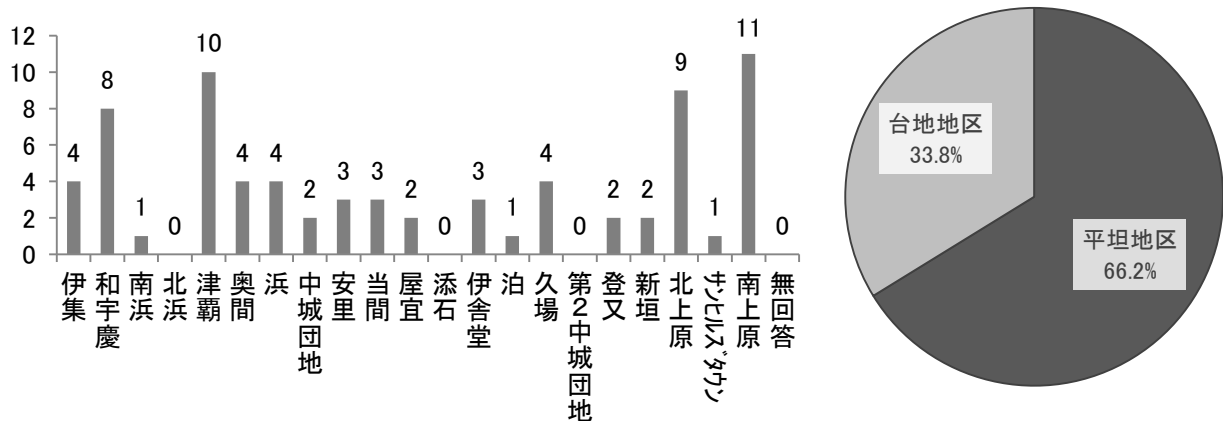
●回答者の属性について

- ・「1年生」からの回答が43.2%と最も多く、学年が上がるにつれ回答数が少なくなりました。
- ・居住地は「南上原」が最も多く14.9%、次いで「津覇」が13.5%となりました。
- ・平坦地区と台地地区に分けてみると、平坦地区が約7割、台地地区が約3割となりました。

グラフ1. 学年



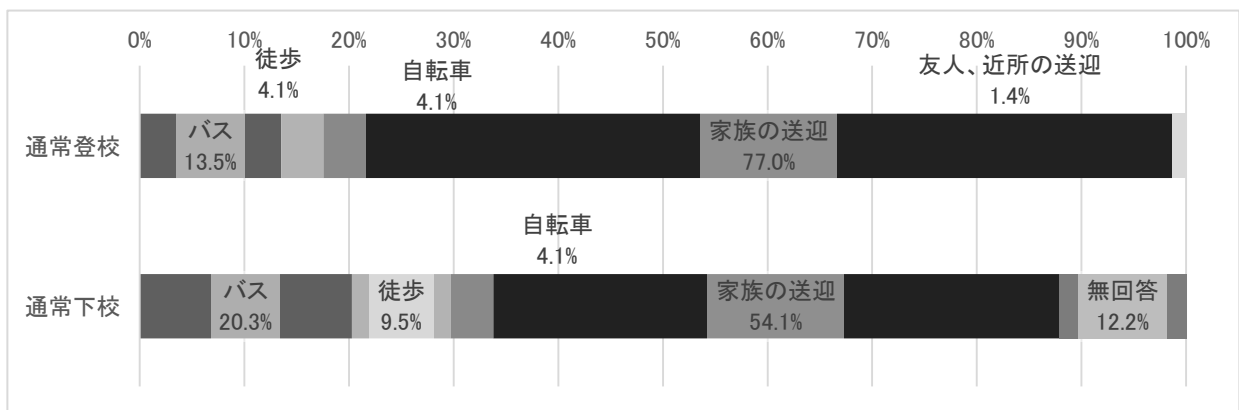
グラフ2. 居住地



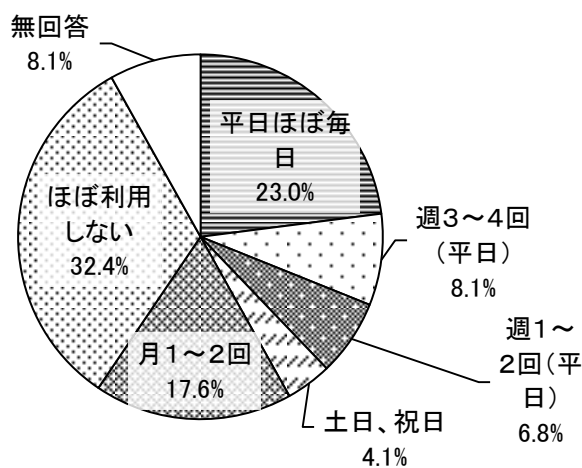
●施設を利用する時の主な交通手段及びバス・タクシーの利用頻度と目的

- ・半数以上が「家族の送迎」で通学していました。特に登校時は77.0%と高い割合となりました。
- ・「バス」での通学は登校時が13.5%、下校時が20.3%となっており、登校時は「家族の送迎」、下校時は「バス」を選択している利用者がいると考えられます。
- ・バスの利用について、「ほぼ利用しない」との回答が32.4%と最も多く、次いで「平日ほぼ毎日」利用するとの回答の23.0%でした。利用する目的としては「通学」が半数を占めていました。
- ・タクシーを「ほぼ利用しない」とした回答が約7割でした。利用する学生の頻度としては「月1~2回」が多くなりました。「平日ほぼ毎日」とした回答は2.7%にとどまっており、日常的にタクシーで通学する人はかなり少ないと考えられます。また、タクシーを利用する目的はバス同様、「通学」が半数を占めていました。

グラフ3. 通常登校、下校時の交通手段

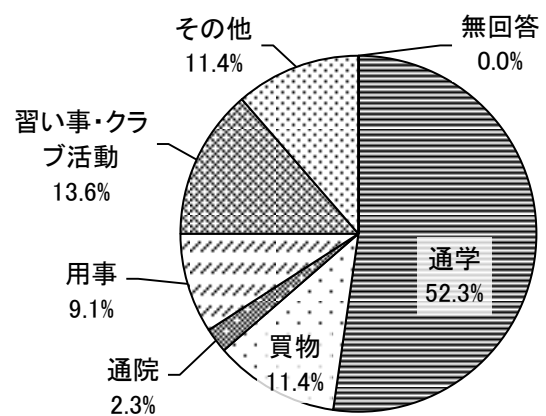


グラフ4. バスの利用頻度

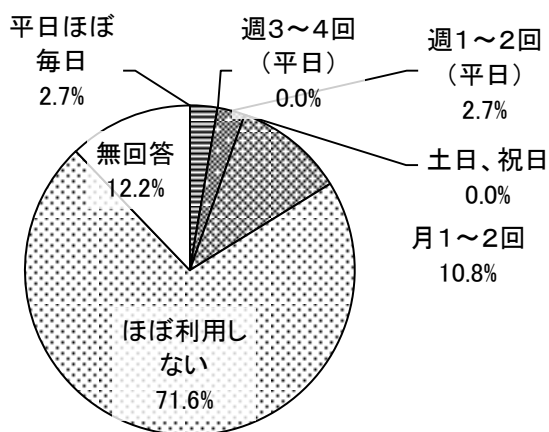


グラフ5. バスの利用目的

※「ほぼ利用しない」、「無回答」を除く

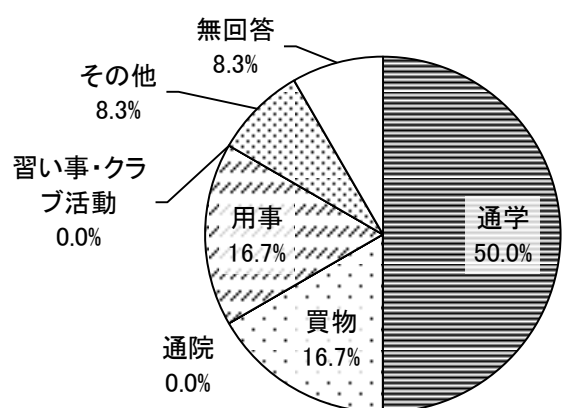


グラフ6. タクシーの利用頻度



グラフ7. タクシーの利用目的

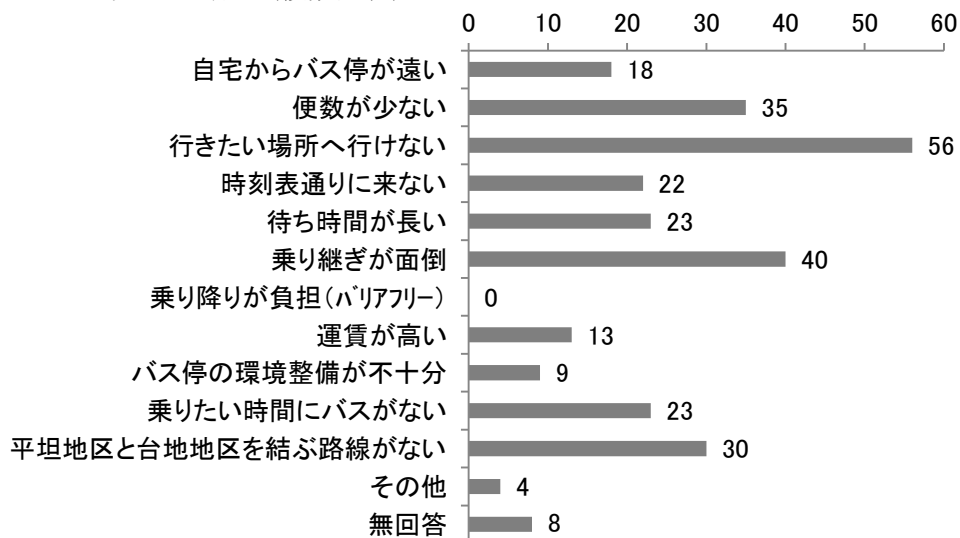
※「ほぼ利用しない」、「無回答」を除く



●バス交通の課題

- ・「行きたい場所へ行けない」と感じている回答が最も多くなりました。
- ・次いで、「乗り継ぎが面倒」、「便数が少ない」、「平坦地区と台地地区を結ぶ路線がない」の順となりました。

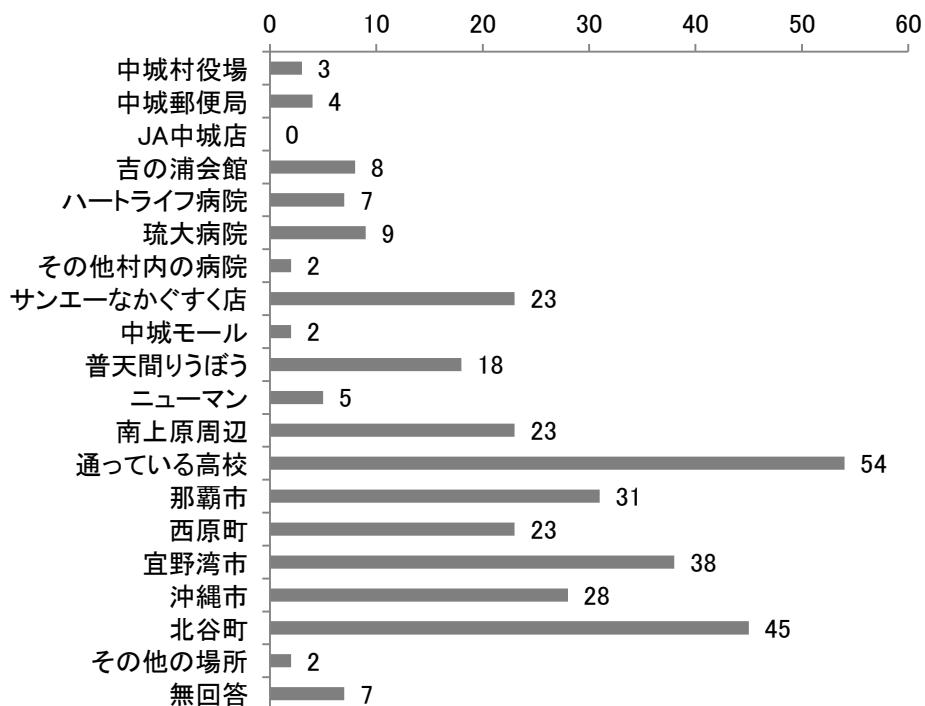
グラフ 8. バス交通の課題（複数回答）



●バスに乗って行きたい、行けるようになるという場所

- ・「通っている学校」との回答が一番多くなりました。
- ・主要施設利用者比べると、村内施設よりも近隣市町村へ行きたいという回答が多く、「北谷町」、「宜野湾市」、「那覇市」の順となりました。

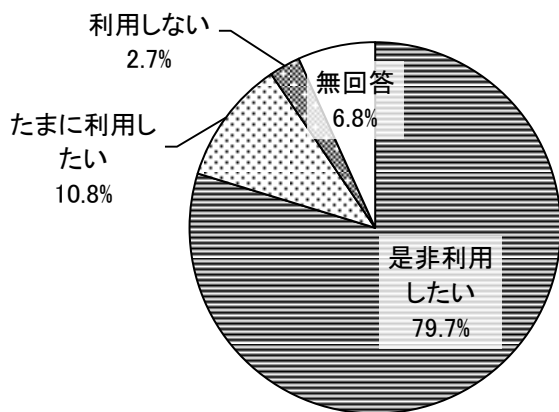
グラフ 9. バスに乗って行きたい、行けるようになるという場所（複数回答）



●村営バスへの利用意向について

- ・「是非利用したい」との回答が最も多く、約8割に達しました。
- ・「是非利用したい」と「たまに利用したい」を合算すると約9割が利用意向を示しました。
- ・「利用しない」との回答は、現在、家族に送迎してもらっている方の回答が多くなりました。

グラフ10. 村営バスの利用意向



●各高等学校の登下校時間帯

○西原高等学校

- ・登校の時間帯は6時～8時半の間で、特に「8時～8時半」が多くなりました。
- ・下校時間は16時～22時半の間に分散しており、授業終了後では「16時半～17時」、部活後等では「20時半～21時」の時間に下校するという回答が比較的多くなりました。

○普天間高等学校

- ・登校の時間帯は6時～9時の間で、特に「8時～8時半」が多くなりました。
- ・なお、普天間高等学校へのヒアリング調査より、早朝講座の開始時間は7:40（希望者のみ）となっています。
- ・下校時間は16時～18時半と19時～21時に分かれており、授業終了後では「16時半～17時」、部活後等では「20時～20時半」に下校するという回答が比較的多くなりました。

○中部商業高等学校

- ・登校の時間帯は普天間高等学校と同様に6時～9時の間で、特に「8時～8時半」が多くなりました。
- ・下校時間は16時～18時と19時～20時半に分かれており、授業終了後では16時～17時、部活後等では19時～20時に下校するという回答が比較的多くなりました。

3. 企業・団体等ヒアリング調査

(1) 目的

高齢者や学生等、交通弱者の日常的な行動や移動手段等を把握し、運行計画と生活交通ネットワーク計画へ反映させるとともに、公共交通への要望などを把握することを目的とします。

(2) 調査対象の抽出条件と対象先

施設分類		抽出条件
商業施設	医療施設	集客力が高く、公共交通利用者も多く利用していると考えられる施設
公共施設	観光施設	
老人介護施設	障害者支援施設	送迎バス等を運行していると考えられる施設
自動車学校		
高等学校		交通弱者の日常的な行動や移動手段、公共交通への意向について把握していると考えられる施設・団体
老人会	子供会	

●調査対象先 73件

区分	企業・団体等		区分	企業・団体等	
商業施設	1	サンエー なかぐすく店	高等学校	1	普天間高校
	2	メイクマン ニューマン店		2	中部商業高校
	3	かねひで 中城モール店		3	西原高校
	4	よなしる家具 中城モール店		4	北中城高校
	5	ユニオン中城店		5	コザ高校
	6	Aコープ 中城店			
	7	普天間りうぼう			
医療施設	1	ハートライフ病院	老人会	1	伊集姫つばき会
	2	琉大病院		2	和宇慶長寿会
	3	わくさん内科		3	津覇老人クラブ
	4	榕原医院		4	奥間福寿会
	5	今井内科医院		5	浜老人クラブ
公共施設	1	中城村役場		6	安里老人クラブ
	2	老人福祉センター		7	屋宜ゴーゴークラブ
	3	吉の浦会館		8	添石健楽会
	4	地域子育て支援センター		9	伊舎堂老人クラブ
観光施設	1	中城城跡 (中城城跡共同管理協議会)		10	久場百歳会
老人介護施設	1	デイサービスセンター オアシス		11	新垣老壮会
	2	デイケア 信成苑		12	南上原ユイマール会
	3	デイサービスセンター 桜の杜	1	伊集子供会	
	4	介護老人保健施設 中城苑	2	和宇慶子供会	
	5	愛誠園東センター	3	北浜子供会	
	6	デイサービスセンター 野の花	4	南浜子供会	
	7	デイサービスセンター ひふみ	5	津覇子供会	
	8	なかぐすく日の出園	6	浜子供会	
	9	デイサービスあまどころ	7	奥間子供会	
	10	デイサービスみずほ	8	安里子供会	
障害者支援施設	1	自立サポートセンター ミラソル	9	当間子供会	
	2	就労サポートセンター ミラソル	10	屋宜子供会	
	3	支援センター なつめ	11	添石子供会	
	4	指定就労継続支援B型事業所 きらり	12	伊舎堂子供会	
	5	就労支援センター グランマザー	13	泊子供会	
	6	グリーンホーム	14	久場子供会	
自動車学校	1	宜野湾自動車学校	15	登又子供会	
	2	普天間自動車学校	16	新垣子供会	
			17	北上原子子供会	
			18	南上原子子供会	
			19	中城団地子供会	
			20	第二中城団地子供会	
			21	サンヒルズタウン子供会	

(3) 調査方法と回収件数

●調査方法

各施設及び団体へヒアリングシートを配布し調査を行いました。

調査対象先	配布方法	回収方法	調査期間
・各公共施設 ・中部商業高校	直接配布	郵送またはファックス	平成 25 年 11 月 13 日 ～11 月 25 日 (14 日間)
・各老人会	社会福祉協議会経由		
・各子供会	小学校経由		
・その他の施設	郵送		

●回収件数

	商業施設	医療施設	公共施設	観光施設	老人介護施設	障害者支援施設	自動車学校	高等学校	老人会	子供会	合計
回収	1	3	4	1	5	2	1	4	10	7	38
配布	7	5	4	1	10	6	2	5	12	21	73

(4) 結果概要

	施設利用者の状況	利用の多い時間帯等	要望等
商業施設 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> 平均利用者数は平日が約2,900人/日、休日が約2,300人/日 高齢者の割合は半数程度、学生は1割未満 公共交通での来訪もある 	<ul style="list-style-type: none"> 平日のピーク時間帯は11～13時、16～19時 休日は11～14時、17～19時 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者から施設の外にベンチを設置してほしいとの要望があり、以前設置したが迷惑行為が重なり撤去した経緯がある 低床バスの導入
医療施設 (3件)	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の割合は総合病院では少なく、個人医院では8割以上 公共交通での来訪もある 	<ul style="list-style-type: none"> 平日午前 	
公共施設 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> 老人福祉センターは全体の約8割、その他の施設では概ね2～4割の利用者が高齢者 	<ul style="list-style-type: none"> 吉の浦会館では週末9時～17時、その他では平日10～16時 	<ul style="list-style-type: none"> 施設を經由してほしい 定時運行 各地区から病院や商業施設等を經由する 車両に広告スペースを設けて広告料を得る
観光施設 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> 平均利用者数は平日が約200人/日、休日が約300人/日 高齢者の割合は約4割、学生は約1割程度 	<ul style="list-style-type: none"> 平日休日ともに10～11時、14～16時 	<ul style="list-style-type: none"> 観光PRにもなるので「護佐丸バス」の名称をつけてほしい

	施設利用者の状況	コミュニティバスへの協力	要望等
老人介護施設 (5件)	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全員が送迎車で通所している 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎車両は所有しているが専属の運転手はいない 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすに対応した車両の導入 ルートを決めず自宅近くで乗降できる運行方法 料金の一律化 買物や通院等で利用できるルートの設定
障害者支援施設 (2件)	<ul style="list-style-type: none"> 送迎車だけではなく自家用車やバスを利用し通所している 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎車両は所有していない、または所有しているが専属の運転手はいない 	<ul style="list-style-type: none"> 南上原を經由してほしい 最低1時間に1本は運行してほしい

	施設利用者の状況	コミュニティバスへの協力	要望等
自動車学校 (1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・中城村在住生徒の平均割合は15～20% ・主に琉球大学の学生 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力はしたいが出来かねる 	

	学生の状況	登下校時間帯	要望等
高等学校 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・中城村在住生徒の年度平均割合は北中城高校が13～15%、その他では1割未満 ・通学の主な交通手段はバス、家族の送迎、徒歩 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時間は概ね8時～8時半頃、下校時間は16～18時 ・部活等で最も遅い下校時間は20時 	

	村内でよく行く場所	村外でよく行く場所	要望等
老人会 (10件)	<ul style="list-style-type: none"> ・サンエーなかぐすく店 ・老人福祉センター ・ハートライフ病院 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンエー西原シティ ・宜野湾市役所 ・宜野湾市農協 	<ul style="list-style-type: none"> ・平坦地区と台地地区を結ぶ路線を確保してほしい ・30分に1本など運行頻度を高めてほしい ・高齢者でも乗りやすいよう車両に配慮してほしい
子供会 (7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・各字公民館 ・屋宜、津覇、南上原にある塾等 ・子育て支援センター(児童館) 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンエー西原シティ ・北中城村あやかりの杜(図書館) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各字公民館、集落内を経由してほしい ・各小中学校を経由してほしい ・回数券等の発行